別紙　病原体（BSL2）を感染させた動物の運搬について

研究課題：

講座名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　動物実験責任者：

[ ] 本実験では病原体（BSL2）を感染させた動物を施設から運搬する可能性がある。

病原体（BSL2）を感染させた動物を運搬する際の注意点

病原体（BSL2）を感染させた動物を施設から運搬する場合は、大阪大学病原体等安全管理委員会が承認した「病原体を感染させた動物の施設からの持ち出しに係る申し合わせ」に従い、下記を遵守する。

[ ] 落下時にも蓋が開かない容器を密封して、動物の逸走及び病原体等の漏出を防ぐ。

[ ] 運搬の都度、「感染飼育室・動物搬出申請書」を提出し、動物実験施設管理者及び病原体等安全管理主任者の了承を得る。

[ ] 運搬は二人以上で実施する。

[ ] 運搬中は容器等に感染動物の運搬中である旨の表示をする。

[ ] 運搬の開始前及び終了後において、運搬予定の動物数と実際に運搬した動物の数が一致していることを確認する。

病原体（BSL2）を感染させた動物の運搬方法

[ ] 動物施設の利用マニュアルに記載された方法を用いる。

落下しても蓋が開かない密閉されたケージ（1次容器）に動物を入れて外側を消毒し、さらに2次容器（オートクレーブバッグなど）に入れて密閉して外側を消毒する。容器は運搬しやすいようにダンボール容器等に入れて搬出する。

[ ] 利用マニュアルとは異なる方法を用いる場合は下記に具体的に記載する。

病原体（BSL2）を感染させた動物の運搬経路

別紙　病原体（BSL2）を感染させた動物の運搬について　記載例（提出時には削除すること）

研究課題：　XXXの解析

講座名：　　遺伝子機能解析分野　　　　　　　　　　　　動物実験責任者：　　　伊川　正人

[x] 本実験では病原体（BSL2）を感染させた動物を施設から運搬する可能性がある。

病原体（BSL2）を感染させた動物を運搬する際の注意点

病原体（BSL2）を感染させた動物を施設から運搬する場合は、大阪大学病原体等安全管理委員会が承認した「病原体を感染させた動物の施設からの持ち出しに係る申し合わせ」に従い、下記を遵守する。

[x] 落下時にも蓋が開かない容器を密封して、動物の逸走及び病原体等の漏出を防ぐ。

[x] 運搬の都度、「感染飼育室・動物搬出申請書」を提出し、動物実験施設管理者及び病原体等安全管理主任者の了承を得る。

[x] 運搬は二人以上で実施する。

[x] 運搬中は容器等に感染動物の運搬中である旨の表示をする。

[x] 運搬の開始前及び終了後において、運搬予定の動物数と実際に運搬した動物の数が一致していることを確認する。

病原体（BSL2）を感染させた動物の運搬方法

[ ] 動物施設の利用マニュアルに記載された方法を用いる。

落下しても蓋が開かない密閉されたケージ（1次容器）に動物を入れて外側を消毒し、さらに2次容器（オートクレーブバッグなど）に入れて密閉して外側を消毒する。容器は運搬しやすいようにダンボール容器等に入れて搬出する。

[x] 利用マニュアルとは異なる方法を用いる場合は下記に具体的に記載する。

上記

上記と同様のやり方の場合は上のタブにチェックを入れて、この欄は空白にしてください。

それ以外の方法を使用する場合は下のタブにチェックを入れて、この欄に具体例を記載してください。

病原体（BSL2）を感染させた動物の運搬経路

感染動物実験施設A棟2-1室から最先端感染症研究棟206室内の安全キャビネット内への運搬（最先端感染症研究棟1階から2階への移動は階段を使用する）







